



図 37 昼間(14時)を対象とした気候解析図の例

1. 図の基本情報	
1) 図のタイトル、目的	気候解析図（昼間） （目的：日中の熱環境に影響する因子及び相互関係の把握）
2) 図のスケール	約 40km × 約 30km
3) 図の作成年月	2003 年 3 月
2. 図の作成手順	
1) 図の使用データ	アメダス観測年報データ（1998～2000年の7・8・9月） 細密数値情報(10mメッシュ土地利用) 東京植生図第9系データ（1996年） 東京都GISデータ（1996・1997年）、道路交通センサス（1999年）
2) 図の作成手順	各要素に関する図の作成方法は以下のとおりである。 対流顕熱については被覆面对流顕熱分布図(52頁図31)から、発生密度の高い方から20%となる(260W/m <sup>2</sup> 以上)エリアを抽出した。 人工排熱については人工排熱顕熱分布図(48頁図28)から、排熱密度の高い方から10%程度となる(80W/m <sup>2</sup> 以上)エリアを抽出した。 建物については、建物面積率分布図(38頁図22)から0.35以上となるエリアを抽出した。 土地被覆状況については、土地利用分布図(31頁図18)及び植生分布図(33頁図19)を用いて、各分類を以下のように分けて整理した。 自然的被覆：田、畑・果樹園、公園・緑地、森林、植生分布図の各要素 人工的被覆：住宅地、業務商業用地、交通用地、その他 気流の出現状況については、アメダス東京観測所における33超日をデータの抽出条件として、14時における風速別風配図を作成した。
3) 図の解像度	-
4) 作成上の留意点	-
3. 図の解説等	
1) 図の見方	被覆面状況は色分けして下図とし、その上に被覆面对流顕熱、人工排熱、建物面積率の各ポリゴンと、4車線以上の道路を示すラインを重ね合わせている。風配図については風速別に色分けして示し、30超時間数については等値線として表現している。
2) 図の解説	大気への熱負荷の指標として被覆面对流顕熱分布図及び人工排熱分布図、建物密集の指標として建物面積率分布図、熱負荷及び建物の密集状況に関わる因子として土地利用図、気流の出現状況を示す風配図の各図を用いて気候解析図を作成した。 顕熱発生密度の高いエリアの土地利用は業務・商業用地や住宅地、道路等の人工的被覆に集中しており、特に都心部で密度が高い。 建物密度が高いエリアについては、顕熱発生密度の高いエリアと重なる傾向が見られる。海風の取り込みについては、特に海岸線からやや内陸側で建物密度が高いエリアが連続している。 顕熱発生密度の高いエリア及び建物密度の高いエリアでは、冷気供給源となる緑地や水面の面積割合が少ない。